

## 〈導入事例〉 国内4拠点のパソコンも同時に管理 従業員のセキュリティ意識が向上

日本で最初のエアゾールバルブメーカーである三谷バルブは、ヘアケア用品や制汗剤、塗料、殺虫剤、自動車用品などのスプレー缶で使われるエアゾール、スプレーポンプなどを製造している。中心となる茨城県五霞町の茨城工場のほか、国内に4拠点をもち、

同社がパソコンの運用管理に着目した大きなきっかけは、取引先である大手メーカーなどからのセキュリティに関する問い合わせが増加したことだ。すでに、基本的なセキュリティ対策やポリシー管理を行ってはいしたが、システム面での具体的な策を施し、顧客に回答したいと考えた。製品を検討した結果、機能・価格の両面で納得したのが「PC運用上手」だった。デモ機で使い勝手を試し決断したという。

茨城工場のパソコンも含めて、各拠点への展開は、起動ファイルを工夫し

て、自動インストールを実現。できるかぎり従業員の手を煩わせないよう工夫した。

現在は拠点間ネットワークを通じて、茨城工場約280台、4拠点計約120台、合計400台あまりのパソコンの運用管理を、茨城工場に在席する情報システム課の2名の担当者で行っている。

情報システム課システム主席技師の角田純一氏は、「社員のモラル面、意識面がこれまで以上に向上しました。日頃からセキュリティに対する注意を払うようになっていきました」と導入後の様子を説明する。情報システム管理業務においても、資産管理によるトラブル時の原因究明のスピード化やリモートメンテナンスの機能が業務を効率化しているという。パソコンの台数が増え、管理負担が感じられず、導入効果を実感しているとのことだ。

茨城県 エアゾールバルブメーカー  
三谷バルブ  
http://www.mtv-g.co.jp/



情報システム課 システム主席技師 角田純一氏(写真右)  
情報システム課 管理係 村上兼一氏(左)



茨城工場のオフィスに設置されたPC運用上手(ラック型)



三谷バルブ 茨城工場の外観

### 導入へのプロセス

●2007年ころ	個人情報漏えい対策について大手取引先より問い合わせが増加。従来以上の対策を考える。検討した製品もあったが予算などの条件が合わず。
●2008年11月	「PC運用上手」を知る。機能・費用も適切で、規模的にも合致。導入提案し、承認された。
●2009年2月	評価機を借用し、機能と性能を確認。
●2009年5月	PC運用上手を導入。ログの保存とハードウェア(PCなど)・ソフトウェア構成情報を保存し、管理を開始。

### お問い合わせ先

株式会社東芝 デジタルプロダクツ&ネットワーク社  
販売元 東芝情報機器株式会社  
プラットフォーム・ソリューション本部  
東京都江東区豊洲5-6-15  
http://pcman.toshiba.co.jp/

### 情報セキュリティ

運用管理・セキュリティ対策  
統合サーバー

### 新バージョンでますます便利に！ 運用管理は

## PC運用上手

サーバー1台に8つの機能をセット

1 ID管理	利用者を特定・管理
2 操作監視	操作内容を記録
3 操作制御	特定の操作を制限する
4 検疫ネットワーク	セキュリティ状態の把握
5 解析・通知	監査情報の提供
6 PCデータ管理	パソコンのデータバックアップ
7 資産管理	機器やソフトの資産を管理
8 システム管理	人事異動等への対応

#### 〈バージョンアップによる強化機能〉

- PC運用上手からリモートアシスタント機能が可能に(拠点のメンテナンスやヘルプデスクに効果)
- ソフトウェア配付機能
- ソフトウェア単体での販売にも対応

※Intel, インテル, Intel logo, Intel Inside, Intel Inside logo, Xeon, Xeon Insideは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。



サーバーは信頼性に優れたインテル®Xeon®プロセッサ X3330搭載



高性能  
スマート

## 社内運用を 楽にする①

# どうする？ 拠点にあるパソコンの世話 集中管理でできるツールで負荷を大幅削減

社内のパソコンは安全に利用できる状況か？ 正しい利用で情報漏えいなどのリスクを防げるか？ IT時代に従業員が安心して働ける環境を保つためには、パソコンの運用管理が欠かせない。一般には「運用管理ツール」と呼ばれるソフトウェアを導入して、社内のLANに接続されたパソコンの利用状況(ログなど)を包括的に管理する。

### 遠隔地のパソコンに接続し 状況確認やメンテナンスを

中小規模企業向けのツールとして豊富な実績をもつのが東芝の「PC運用上手」である。本製品は、前号(2010年冬号)で紹介したように鹿児島県商工会連合会など公的機関でも導入が進んでいる。一般企業の利用においては業種・業態はさまざまだが、今回は本社以外に拠点をもち企業での採用に着目してみたい。

拠点をもち企業がIT活用する際の悩みの一つは、ITに詳しい人材を拠点ごとに配置するか、責任者が適宜訪問して運用管理をしなければならぬことだろう。しかし、「PC運用上手」ならば、ネットワークでつながった拠点内のパソコンも本社と同様に管理するこ



とができるのだ。一例を挙げよう。茨城県の三谷バルブでは、東京、大阪など四つの拠点とインターネットVPNでつなぎ、本拠地の茨城工場に設置した「PC運用上手」と接続。情報システム担当者は茨城にいながらにして合計400台のパソコンを一元管理している(詳細は左コラム参照)。本製品は2010年3月にバージョンアップされ、さらに機能を強化。その一つが遠隔管理面で、Windows上のリモートアシスタント機能を「PC運用上手」上から利用可能となった点だ。これによって、動作が不安定なパソコンがあっても遠隔から接続して画面状況などを確認し、対策が取れる。また相手と同じ画面を共有できるので、電話で話しながら操作の相談にのるといった使い方も考



えられる。ITに詳しい担当者が現地に行かずとも自席から遠隔管理できるのは便利だ。新バージョンでは、各パソコンへソフトウェアをインストールしていく際に利用者側の操作なしで自動配付する機能も加わり、使いやすさが向上。また、サーバーとの一体型以外に加えソフトウェアのみでの販売もスタートした。さまざまな企業にとってますます導入しやすいツールとなった。